



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年12月1日

12月号・第179号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



エコファーム・案山子一家の勢揃い

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

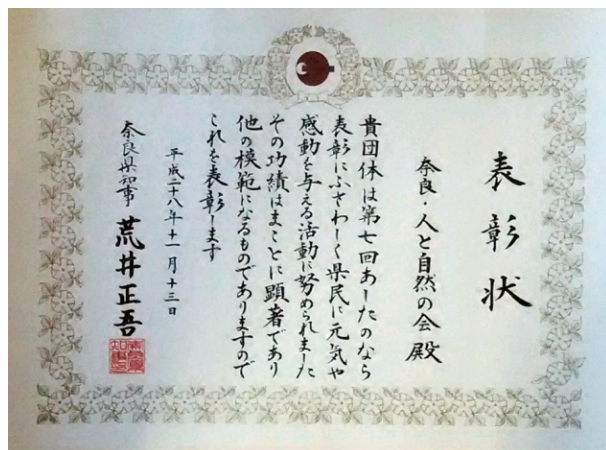
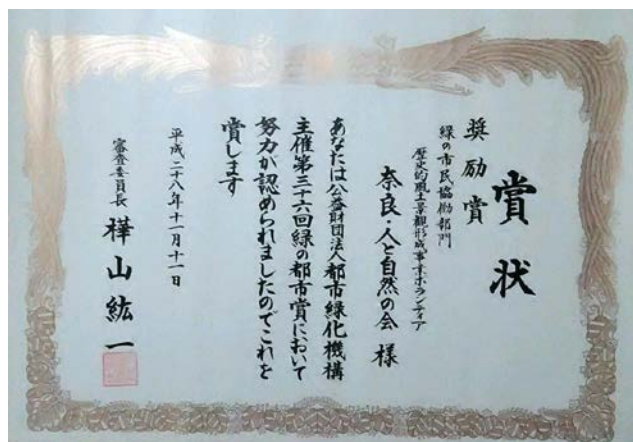


URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	ギャラリーならやま	11
多土済々	2	ならやまプロジェクト	12
Monthly Repo.ならやま	3	行事案内 part1	13
里山の今	4・5・6	行事案内 part2	14
「鳥」シリーズ & 字遊字感	7	行事案内 & 行事予告	15
10月・自然教室・報告	8	行事予告(記念講演会)	16
11月・歴史研修会・報告	9	幹事会報告・編集後記	17
俳句百景	10		

壮春力歩

会長 鈴木末一



◆栄えある表彰式に臨み緊張の連続

「第36回緑の都市賞・市民の協働活動部門・奨励賞」の表彰式が、11月11日（金）午後5時から、明治記念館において執り行われました。前日とは打って変わり霧雨が降りしきり、吐息も白くなるほどでありました。

記念館は、木々が生い茂る明治神宮外苑の杜、その外苑に位置しており、都心にもかかわらず豊かな緑に包まれています。元赤坂と言われる所でもあり、国賓をお迎えする迎賓館もあるロイヤルエリアです。1881年に赤坂仮皇居として竣功したのが始まりであり、移築竣功などの変遷を経て今日に至っている由緒深い館であります。

人と人をつなぎ、一期一会を大切に集いの場で、栄えある受賞を得る事ができ、喜びも一人でありましたが、リハーサルが進められていくにつれて、徐々に緊張感が高まりました。

興水肇都市緑化機構理事長、渡邊光一郎第一生命ホールディングス株式会社々長のご挨拶、田中良生国土交通副大臣のご祝辞に引き続き、榊山紘一審査委員長より講評があり、表彰状が授与されました。

皆様方からは、異口同音に「長きに亘り実績を積み重ね、本当の都市＝緑の豊かさであり、長く受け継がれていき、地域とのコミュニティーを大切に」と述べられていました。

引き続き祝賀交流会があり、多くの関係者の方々と懇談し、名刺交換をいたしました。

◆「第7回あしたのなら表彰」は、11月13日（日）に、東大寺総合文化センターで授与式がありました。事前打合せとリハーサルが、午前10時半から始まりましたが、県の関係スタッフが、綿密にスケジュールを組まれているようで、受賞者の立ち居振る舞いをタイムスケジュールに合せての予行が2時間近くあり、東京での時と同様に緊張度が高まってきました。



午後2時、予定通り開式になり、荒井正吾奈良県知事のご挨拶に引き続き、ビューティフルシニア・コンテストがあり、その後、被表彰者があしたのなら表彰の活動発表をしました。

ジャズピアニスト秋満義孝さんによるトークと生演奏を挟み、荒井知事から表彰状が授与されました。

知事から「素晴らしい歴史的景観整備と保全に努めていただき感謝しています。会員の皆様によるしくお伝えください」とのお言葉をいただきました。そこで、当方からは「機会がございましたら、是非ともならやまをご視察いただければ幸いです」と申し上げました。

最後に、全員での記念撮影と知事とのツーショットの撮影があり、滞りなく表彰式は閉式となりました。

1日を挟んで二つの表彰式に臨み、多くの方々と出逢いました。ならやまが結んだ縁です。その縁を大切にしていきたいと考えています。

多士 済々

こよなく奈良を愛する

富井 忠雄さん

顧問 阿部 和生



28年度執行部の幹事としてご活躍の富井さん、今期からは「月例研修会リーダー」として積極的に行動しておられます。過日の1

泊研修旅行でもお得意の長いアンテナで情報をキャッチ、さらに充実した研修会へと企画が膨らみました。快適なバス旅行への工夫があり、真庭市のお祭りを堪能するなど満足な研修会となったことです。「前年度の企画を実施しているだけよ!」とご謙遜です。これから策定される29年度の立案が今から楽しみです、自然教室チームに加え歴史文化クラブとのコラボもあるそうです。

エコグループでの活動は、年季の入った作業ぶりです。現役の頃でも休日などは、ご両親の手伝いをされていて、田畑の作業はいつしか体が覚えているからでしょう、的確な指摘が飛びます。もちろん家庭菜園もこなされ、同好の方たちへの菜園指導もなさっているそうです。田畑の管理は大変でしょうが、健康野菜を食卓に明日への力が保たれます。

奈良で生まれ育ち奈良が本拠地、お仕事とは別に若い頃から歴史、特に考古学に関心を持たれ関わってこられたようです。「平城宮跡の発掘調査に関わったこともあるよ」といわれますから年季が入っています。素人には距離を置きたくなる地味な発掘調査は、根気、推理、謎解きが前提になり、興味というエネルギーなしではつとまらない作業に思えます。感心することしきりです。

地元の斑鳩の里「法隆寺・聖徳太子」には特別な関心を持っておられ シニア自然大学校を修了されたその同期の方々を主体とした「大和の自然と文化の会」サークルを結成、主催されています。「奈良・人と自然の会」共々多くの方々に啓蒙と体験を伝授しておられます。斑鳩の里に残された古文化は、地域の人々の精進努力があつて、天災、地災、人災、の中から護持されてきました。そうした風土の中で育まれた関心度は、お仕事を離れられた今日ますます高まっているように感じます。斑鳩は、汲めども尽きぬ泉のように魅力にあふれているのでしょう。

「会」での法隆寺探訪研修の際には、その片鱗を垣間見た事です。法隆寺の持つ歴史、文化、魅力、不思議を熱く語られ、終日を費やしても飽きない解説をされたことが強く印象に残っています。



生粋の奈良県人であるだけに 仕事を離れられると地元の役職が待ち受けています。町選挙管理委員会、人権委員会、夢明かり実行委員会等々、地域の発展に貢献、関係して

おられ、それぞれに招集がありご多忙です。この12月には春日大社の「おん祭」への参加も控えています。こうしたことが様々な情報を得られる源泉の一つかもしれません。

幹事会での発言は、きちんとご自分の意見を表明、気持ちの良いことです。議論のあとはすっきり、まとまったことに忠実です。会議の後の反省会は、賑やかで こよなくお酒も愛されます。ますますのご健闘を切に願っています。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

10月22日(土) イベント 曇り 19名+1名

会員及び会員家族対象の芋ほり。参加者は少なかったが、午前中は芋ほり、焼き芋作りに取り組む。昼食後は里山に入り、自然観察会を行う。また、午前中、たまたまサイトを通りかかった2名の男女外国人観光客(メキシコ人およびオランダ人)が会員や家族の輪に加わり、昼食や午後の活動に参加しながら交歓の機会を持った。ならやまにも国際化の波がさらに押し寄せるか。

10月27日(木) 活動 晴れ 58名+2名+1名



紅葉が始まった中での活動。田んぼには佐保台小児童作製の案山子が加わり、実りの秋を見

守る。また、FFの交流会をはじめ、協働作業等々忙しい日になる。里山Gは枯れ木の伐採、エコGは畑へのチップ入れ、そして景観Gは第五地区の草刈りと気が抜けない。加えて、ビオ班の池の整備、花班の花の移植、そしてパト班の観察路の整備とこちらも大変な作業だ。打ち合わせでは来月から各Gに分かれてのミーティングタイム実施が提案される。今以上にグループでまとまった活動が進められ、成果も上がるだろう。

11月3日(木) 活動 晴れ 63名+41名

協働作業及びFFとの交流会が行われる。協働作業の内容は第五地区の斜面の除草刈りとソバ収穫になったが、沢山の参加者の作業で終了。また、



交流会でも芋ほりや里山散策、その他サイトを中心とした遊びに参加者もいきいきと活動を行う。「また来た

い」の声が嬉しい。各Gは冬や春に向けての野菜や花の準備のほか、山に入って枯れ木の処理を行う。打ち合わせでは協働作業の段取りの確認、FFからの挨拶等が行われる。本日から新入会員1名。また佐保台小から2回目の案山子が届き、里山を彩る。

11月10日(木) 活動 曇り 59名+2名

グループ毎のミーティングタイムが昼食後に実施される。課題や成果の認識を通して、今まで以上にグループや個人間の



絆も強まり、会のレベルも上がることが期待される。里山Gは皆伐地区の枯れ木処理等、エコGはエンドウの種まき等、そして景観Gは第五地区の竹林整備を中心とした活動に取り組む。また、ビオ班は近大生を交えての水生生物調査、花班は矢車草の植え付け、そしてパト班はパトロールと観察路階段修理の準備に汗を流した。打ち合わせでは、授賞式典への参加要請や第五地区の正式名称公募の依頼等が行われる。近大生2名来訪。

11月17日(木) 活動 晴れ 65名+2名+1名

気持ちのいい陽気になり、充実した活動が出来た。特に昼食に炊き込みご飯が提供され、販売では大きく育った野菜やシイ



タケなどが準備されるなど、収穫の秋を実感する。打ち合わせでは授賞式典で授与された立派な記念の表彰状やメダルが披露されるなど改めて誇らしい気持ちになる。

活動では野菜の収穫や春の花の準備、その他樹木の伐採や整理と多岐にわたる。また、春に向けて施設の補修や池の整備にも手が抜けない。来訪者3名。

里山グループだより

大澤教男

*つれづれなるままに・・・

12月号ということで、先ず浮かぶのは朝のたき火、皆で囲んで、温まってから今日が始まるんですよ。たき火って本当に有り難いものです。



「節くれの手が笑い出すたき火かな」ってところです。

薪棚も沢山できて、薪も一杯あって、後は買手待ち？ 探さなきゃいけないのかな？

自家用は、ナラ枯れの薪が沢山あるので十分でしょうが、これがアツという間に無くなっていくんですよ、寒いと使い放題だから。

今年も生駒市のナラ枯れ調査に行きましたが、担当エリアでは昨年の2倍以上の本数になっていました。今、伐採関係の活動はここを含めて3サークルに参加していますが、ナラ枯れはどこも似たような状況です。



ただ、「ならやま」は他と違って、伐採した枯れ木を運び出せる山道の状況、運搬車、労力が揃っている等が恵まれています。

会組織の管理体制、役割分担もそれなりにできてきており、安全に安心して活動ができる場所になっています。細分化されすぎて、少々ダイナミズムに欠けるきらいもありますが、それはわがままといえるのでしょうか。

体力、気力のあるうちは、里山に入り、里山の保全活動を通じ、自然環境を保護し、生物多様性を推進し、ならやまが「環境教育の場」「学習の森」となるよう頑張りたいものです。

もう一人の自分が言っています、「里山？そんなものの定年後の遊び場だよ、好きこそ物の上手なれ、好きなことをやって夢中になれて、熱中できて楽しけりゃいいんだよ」

おしまい。



里山の今

エコファームだより

井戸 八穂子

今年の4月14日に里芋の植え付けをしました。ならやまで昨年収穫

された芋が種芋です。5月半ば、ひよろひよろと10センチほどに伸びてきた苗は、雑草に負けそうでしたので、エコファーム総出で草取りをしました。6月2日、2週間で元のように雑草に埋もれてしまった苗を救出したあと、土寄せと施肥、畦の溝に雑草よけのマルチを敷きました。

7月初めには青々と葉が茂り、順調に生育していましたが、8月に入り雨がほとんど降りません。真夏は小芋が生長する時期でたっぷりとした水が必要です。8月終わりには葉が枯れる株が見られました。そして、9月の長雨と日照不足。今年は里芋の生育にとっては厳しい年でした。それでもならやま産の里芋は、元気を取り戻して再び葉を茂らせています。



里芋の葉は、葉の上にたまった水滴を根の方にすばやく落とす形をしています。この葉は蓮の葉と同様に水をはじく性質があります。超撥水というしくみで、早く葉を乾かして

効率よく光合成をするためだそうです。葉の表面には多数の凹凸が複層になっており、これが水をはじく原理です。M社製ヨーグルトの中身がくっつかない蓋や、ごはんのつかないしゃもじなど、里芋の葉の形態を利用した製品が作られています。

里芋は親芋、子芋、孫芋と順につくので、子孫繁栄のおめでたい品として、お正月の料理に使われています。万葉集にも里芋の歌が詠まれていて、

日本古来よりなじみのある野菜です。

そんな里芋を味わう、ならやま芋煮会はもうすぐです。



景観グループだより

内河洋文

* 来年に向けて *

景観だよりではなく個人的な夏の話で恐縮です。今年は夏から秋にかけて、あちこちで雑草が背丈程にも伸びて里山の景観を損ねてしまった。天候に恵まれなかったの？ まさか怪我で1ヶ月以上も休んだ私のせい？

いやいやいやー、私一人が休んだくらいでこんな状態になる訳がない。

冬寒い信州生まれのせいかな、青葉の5月からお盆過ぎまでの夏が大好きだ。特に梅雨明けの7月中旬からお盆までは、夏を満喫できる最高の期間である。青空の中に猛り狂ったように湧き上がる純白の入道雲を見ると、身体に力が漲ってくるような気がする。リタイアして周囲の景色を眺める余裕が出てきたのか、民家の庭などで見かける百日紅の花を好きになった。最近その百日紅さるすべりが街路樹となっているのを発見。赤にピンクに白色にと、それぞれの色が青空に溶け込んでいる。この花は咲いている期間が長いので結構楽しませてくれる。 우리가里山にも百日紅の木があれば・・・。

単身赴任時代は里帰りをして、家の周りの草刈りをした。もっとも、薙刀のような草刈り鎌であるが。雑草をばっさばっさと刈り取って行くと、仕事の悩みも吹き飛んでしまう。作業後の汗まみれの体に浴びせる水の爽快感、夏は本当に開放的で気持ちがいい。当会に入ってすぐに草刈りを希望したのも、こんな経験があったからだろう。夏の草刈りは大変だけど大好きだ。

『揉めど揉めど我が左手楽にならざり、じっと手を見る』怪我で約1ヶ月半草刈りから離脱してしまい、大好きな夏とお昼時間を皆さんと共有出来なかったのがちょっぴり残念であり淋しい。

その怪我も未だ完治せず。だから、最近では怪我をしないよう、行動には慎重を心掛けている。

そして来年は“素敵ない山ですね”と言われるよう「明るく、楽しく、無理をせず」の精神で、たくさん、たくさん汗をかこうと思う。



パトロール班だより

守口京子

何やかや言っても夏はそれなりに過ぎ、ならやまでも秋が深まって来ました。スズメバチ、カエントケなど観察路を歩くのにびくびくする場面も少なくなり、活動しやすくなりました。ただ「ならやま自然の森」は枯死木の倒壊、落枝が激しく、「この間片づけたのに」と愚痴も聞こえてきます。また階段、ポイントポールの傷みも激しく、修理に忙しくしています。

階段はコツコツ作り続けてなんと40か所、わずかに1,2段の階段もあれば十数段もある長いものもあります。材木は時とともに朽ちていくので修理作業はエンドレス。ため息も出そうです。そんな中でこんな看板を見ると心が和みます。枯れ木に穴が空いているのは、コゲラの仕業だそうです。また第五地区にはアキノキリンソウがたくさん咲きました。

下の写真は階段修理用の資材として丸太を切る作業をしている所です。十分な資材が確保できたので、観察路整備の活動もはかどりそうです。



ならやま虫だより

菊川年明



里山の今

ならやま花だより

桜木晴代

◆チョウの越冬態

ならやまでよく見かけるポピュラーなチョウ3種類について、冬籠もりに入る時期にちなみ、そのさまざまな越冬の姿をご紹介します。

*成虫での越冬

キタキチョウ（従来のキチョウ）・ムラサキシジミ・ウラギンシジミ（下の写真）・アカタテハ・ヒメアカタテハ・ルリタテハ・キタテハ・クロコノマチョウ・テングチョウの9種です。このうち、ヒメアカタテハは幼虫越冬もあるそうです。

*蛹での越冬

アオスジアゲハ・ナミアゲハ・キアゲハ・ジャコウアゲハ・モンキアゲハ・クロアゲハ・ナガサキアゲハ・モンシロチョウ・ツマキチョウ・ツマグロヒョウモン・サトキマダラヒカゲの11種です。このうち、ツマグロヒョウモンは幼虫越冬もあるそうです。

*幼虫での越冬

モンキチョウ・ベニシジミ・ヤマトシジミ・コムシジ・クロヒカゲ・ヒカゲチョウ・ジャノメチョウ・ヒメジャノメ・ヒメウラナミジャノメ・イチモンジセセリ・オオチャバネセセリ・コチャバネセセリ・キマダラセセリの13種です。

*卵での越冬

常連のチョウで卵越冬のものはゼロです。

感想としては、成虫で越冬するチョウは姿を見ることが少ないものの意外に多い、蛹で越冬するものは推測の範囲内、幼虫で越冬するものは意外に多く、少し驚き、常連のチョウの中に卵越冬のものがないのも意外な感じ、というところです。



セイタカアワダチソウが、ここ数年少なくなったように見えました。

ところが再び繁殖しだしたように思えます。「セイタカアワダチソウはシス・デヒドロマトリカリア・エステルというアレロパシー物質を周りにまき散らし他の植物を寄せ付けず繁茂する。セイタカアワダチソウが衰えた原因として、自身のアレロパシー物質のために自らを滅ぼしたのではないか」と言われていました。それならば、再び勢いをもち始めた原因は？という疑問が頭をもたげました。



(ガードとピオトープの間の空き地のセイタカアワダチソウ)

以前、植物についての疑問に丁寧に対応してくれた長居植物園の学芸員を訪ねました。担当学芸員は、上記の疑問について考えられる要因を簡潔に説明してくれました。(以下は要約)

- *そもそもセイタカアワダチソウにはアレロパシー物質は存在しないという説もある
- *セイタカアワダチソウのアレロパシー物質と同等のアレロパシー物質を持つ植物は他にも存在するため、それらの植物の影響
- *セイタカアワダチソウは耕作放棄地などで繁殖しやすい。それは土壌の影響
- *繁殖や衰退を繰り返すのは、一つは土壌の変化
- *日本に侵入した天敵（セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ等）も衰退させた一因

様々な要因による生育地の環境の変化が繁茂と衰退に関係していると考えられる。そのため、環境の変化と植物の変化を定点観察することが肝要。という趣旨の説明を受け、頭の中を整理しながら家路につきました。

（長居植物園では各専門の相談員が対応してくれます。予約が望ましいとのこと）

鳥シリーズ 12月号 勝田 緑
「コウノトリ」

コウノトリ（特別天然記念物）との出会いは10月14日午前9時頃、車中への電話が始まりでした。急きょ予定を変更して、カメラをもって教えられた三郷町役場横の大和川へ急ぎました。辺りには5・6人の役場の人がいるだけでした。



カメラのシャッターは押しっぱなし。7羽を確認しました。側にいるアオサギと比べたらコウノトリの大きさがよく分かります。(コウノトリ 112cm・アオサギ 93cm)「白と黒のコントラスト」には感動しました。

新聞社に写真を送ったら、足にタグが付いており、豊岡から飛んできたということが分かりました。

県内への飛来は過去2回。いずれも一羽ずつ。この季節に集団飛来するのは珍しいそうです。

「コウノトリの郷公園」のHPによると、“放浪”中のコウノトリがある地域に定着するためには、その地域の豊かな環境が必要であるとのこと。あらためて今回のコウノトリとの出会いに意味を感じました。(写真 勝田 均)

中畑さんを悼む

顧問 阿部 和生

去る8月31日に、中畑 進さんが急逝されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げ、長年にわたる「奈良・人と自然の会」へのご尽力に御礼を申し上げたいと思います。

大学時代にワンダーフォーゲル部を立ち上げ発展させたバイタリティと鍛えた体力でご活躍、その後の多彩な教員生活を終えられた。

退職後に入会され、[忍辱山国有林間伐]や[ならやま初期の里山整備]にご尽力をいただきました。

「作業は健康管理にしろのや!」と笑い飛ばしつつ、[刈り払い機]を担いでの懸命の作業を思い起こします。持病と付き合いつつの活動でした。



好物の松茸には目がなく、お酒と食事はセットよ! とこよなくお酒を愛された方でしたが、ここ数年は、主治医から許された夕食のビールが至福の時だった様です。

そういえば節目の忘年会や飲み会には「あまり飲めんのやけれどもな…」と言いつつ小粋な甚平さん姿で参加され、目を細めておられました。

その甚平さんの上下は、奥様手作りで特に気に入られ、足袋に下駄の生活がお好きでした。

「里山林整備も10年経過とのこと 随分になりますね…」と暑中見舞いのお便りが最後になりました。奈良県野外活動センターでのお仕事が特に性に合っていて、自然の力を多くの学生に伝えてこられていたのですが、そうした片鱗はあまり見せずに黙々と作業されていたことを思い返します。

「創立15周年記念誌をお届けし、語り合いたい」としていた矢先のご逝去でした。

享年79才 ご冥福を祈ります。

自然教室だより

10月・秋のならやま自然観察会報告

辻本 信一

平成28年10月22日(土)、午前中の会員向け芋掘りイベントに協賛、午後より自然教室チーム主催「秋のならやま自然観察会」を実施しました。



【会員向け芋掘り大会】 【参加者集合写真】

午前中の参加者は会員のご家族(お孫さん)1名を含め20名。そのうち13名の方が昼からの自然観察会にもご参加いただきました。正確にはタイミング良くそばを通りかかったオランダ人女性1名とメキシコ人男性1名を加え15名。思わぬ形で国際交流つきの楽しい山行きとなりました。

コースは1週間前、佐保台小学校の児童達を招き森林学習で利用したコースと同じ、東池の脇を通り部分皆伐・クヌギ植樹地帯を抜け、鳥観の丘に出て、その後竹の子平の横を通過し、つつじの道を下るコース。

コース入口では5枚の小葉からなるコシアブラの葉が私達を迎えてくれ、足元の落ち葉からは独特の甘い香り。近くにはよく似た三出葉のタカノツメ、どちらも若葉は美味しく頂けます。

その隣では山菜の代表選手、タラノキの幼木がトゲいっぱいの幹をさらしています。

最初の到達地点、萌芽試験実施中の部分皆伐地

では、アカメガシワやカラスザンショウの実生が目立ちます。カラスザンショウの葉を揉むと、独特のレモンの様な柑橘系の香りがします。その匂



【部分皆伐地にて】

いにみんなウツトリ。

そこを過ぎ、登り道をしばらく行くと、行程の折り返し点「鳥観の丘」に到達。普段ならここからは平城京の大極殿が遠望できるのですが、今は竹やコナラの葉が視界を遮ります。

ここで目にしたのは黒い実がおいしいシャシャンボの木。葉の裏を触ると主脈に2~3の突起があり、それと判別できます。一旦戻り西側に進むと竹の子平。そこでは名札のかかったクロバイの木に出会います。普段意外と目につかない木ですが、初夏には足元に落ちた可憐な白い花で絨毯を敷き詰めたようになり、その存在に気付きます。



【説明を聞く参加者】 【散策路を整然と、】

途中には足元にいくつものマンリョウの葉。ならやまでは、センリョウ、イチリョウ(ツルアリドオシ)も目立ちます。「千両」、「万両」、「有り通し」と縁起の良い名前が揃い、改めてその植生の豊かさに驚かされます。他にも、エネルギー革命以前の薪炭の時代、資源として欠かせなかったコナラ、クヌギは勿論のこと、ならやまで特に目立つのはサカキ、ヒサカキです。両方とも競う様に生えています。似た者同士としてはアセビとネジキ。どちらもツツジ科でよく似ていますが、アセビは常緑樹、ネジキは落葉樹です。

こういう話をご紹介しながら30分くらいで走破できるコースを1時間以上かけて散策いたしました。希少種は別にして、この日出会った植物は、イヌツゲ、アオキ、カクレミノ、リョウブ、ソゴ、サルトリイバラ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、チヂミザサ、ヒヨドリバナ等々。コース終わり近くでは「親孝行の木」で知られるヤマコウバシもございました。冬の落葉の時期に葉が落ちず借金の期限を延ばせたとか。葉が落ちないので、受験生のお守りとしても人気があるともいわれています。素晴らしいならやまの散策に次回は皆さんも是非ご参加ください。

歴史文化クラブ11月研修会

「聖徳太子と秦河勝」 坂東久平

11月15日、歴史文化クラブ研修会を開催。予報を覆し穏やかな好天に恵まれ、秦河勝の本拠地とされる太秦、嵯峨野を訪ねる。

参加者は定員満杯の27名。途中で心配された交通渋滞もなく、定刻通りの運行となった。



(木嶋神社にて)

冒頭、川井会長よりご挨拶があり、東京での「緑の都市賞」授章式と、東大寺での「あしたのなら」表彰式について、鈴木会長に代わり報告があった。

車中で、古川さんから秦河勝解説第1部があった。秦氏は、5世紀後半に朝鮮半島の新羅から渡来したとされ、祖は秦の始皇帝に始まる系図もある。弓月君が応神朝に渡来し、雄略朝に秦造酒、飛鳥時代から奈良時代に掛けて、秦河勝が活躍した経緯を拝聴。(解説第2部は、帰途の車中)

秦氏は、政治にあまり関与しない殖産的氏族として、先進文化の養蚕、土木技術などで勢力を伸ばし、河勝(川勝)の公式史料への登場は少ないが、崇徳戦争で聖徳太子を助けての活躍、推古10年に太子より賜った仏像を、蜂岡寺(後の広隆寺)に収めたことなどが有名である。

河勝は、桂川に大井堰を築き、荒野であった嵯峨野を灌水し地域の発展に尽くす。葛野と呼ばれたこの地は、秦氏の根拠地として栄えた。秦氏関連の、広隆寺、松尾大社、木嶋神社、大酒神社、梅宮神社、法輪寺があり、秦氏の長のものである古墳(蛇塚古墳など5世紀末から6世紀末に造られた前方後円墳)が残されている。

ここ太秦の地は、私の生まれ故郷で、懐かしく、想いを込めて案内させていただいた。

第1番目の訪問地は、蚕ノ社(木嶋神社)で、日本でも唯一といわれる「三柱鳥居」があり、三角形の頂点の方向に、松尾大社、伏見稻荷(秦氏関連)、双ヶ岡(頂上に秦氏のものである古墳)がある。三柱鳥居は泉の中に立っており、今は涸れているが、70年前には土用の丑の日に無病息災を願って、足を浸けに来たものだ。

広隆寺では、霊宝館で数々の仏像を拝観し、中でも「彌勒菩薩半跏思惟像」は国宝第1号で有名である。

ここから徒歩(約15分)の所に蛇塚古墳がある。石室だけが露出した状態で、周囲は住宅地になっている。鍵を開けて頂き、石室内にはいったが、飛鳥の石舞台に匹敵する大きさに圧倒される。



梅宮大社のベンチで昼食。ここで、子宝を授かるという「またげ石」や、熊野のカラスが石になったとされる「影向石」を拝観する。

松尾大社は秦氏の氏神。御祭神の“大山咋神”は、大山に杭を打つ神であり、農耕(治水)を司る神とされ、比叡山の日枝神社の御祭神でもある(三柱鳥居との関わりもありそうだ)。

境内には、沢山の酒樽が奉納されており、前庭で、珍しい植物「カギカズラ」を観察した。

十三詣で有名な法輪寺に登る。元の名は葛井寺だったが、中興の道昌が892年に虚空蔵菩薩を安置して法輪寺と改めた。道昌も秦氏の末裔であり、先祖の建設した葛野大堰を修復し、この功績を讃えた石碑が、大堰川左岸に建っている。

法輪寺からは、徒歩で渡月橋に向かい葛野大堰を見た。後世に改修されているが、今も嵯峨野に水を送り続けていることが感慨深い。

今回特別参加の川勝孝雄さんは、秦氏の子孫である。家伝の古文書を拝見させていただき、一同は大興奮。

色づき初めた嵐山の紅葉や、美しい银杏や楓の黄葉に感嘆しながらの歴史探訪であった。

俳らるる

監修 川井 秀夫

塩田の枝条架しじょうか並び磯の秋

九州の旅。「枝条架」の名詞が新しく「磯の秋」が抒情感を
馱り立てる。初投句とは・・・更なるご健吟を。

坂東由紀子

蕎麦打ちに集ふ昭和の戦士かな

初投句。新しい世界に挑戦されて、これだからが楽しみ。
蕎麦クラブの一員として実習風景を切り取つての一句。

川口 達夫

若き日の武蔵を見たか胡桃くるみの木

例研一泊旅行。武蔵出生の地、美作 平福での作。
野性的な少年期の遺跡を辿る。決闘の地の大木何を思う。

桜木 晴代

葉も茎も苦汁くぢの椎化ヤナギタデ

この植物は蓼酢れいそとして有名。辛味が強く刺身のツマにも。
苦味は作者の感性でしょうか。酒飲みには重宝な代物。

小山与喜男

芋嵐農夫の帽を飛ばしけり

木枯一号の吹き荒れた里芋畑の一景でしょうか。自然の悪戯は
思わぬ処で起きる。私も栗の毬で血が噴き出したことがある。

鈴木 末一

乳呑児も法被はっぴを纏まとひ秋祭り

例研一泊旅行。勝山町で秋祭に遭遇。過疎の町に若さが弾ける。
若い母子の法被姿が印象的。正にここは日本ぞ・・・。

八木 順一

里山に微笑み誘ふ紫山むら子かな

エコファームの畑地に紫山子が竝ぶ。わが女性ファーマーの作品。
佐保台小の参加作品もあつてほのぼのとした味がある。
皆さん鑑賞の程。

八木 順一

ならやまに燥はしぐ童のお諸振り

恒例の小学生たちの諸掘り風景。珍形奇形に大燥ぎ。
我々の少年期は茎が主食。諸掘りなんて、とてもとても。

坂東 久平

枝豆の数珠に繋がる命かな

生物たちの子孫繁榮の本能は宿命の様なもの。自然を享受する
人間様は如何なものか。ストップ少子化。自然を鏡とすべし。

羽尻 嵩

多羅葉たらに献句託して翁の忌

「翁の忌」は俳聖 芭蕉の忌日。歴史の下見での一句。
タラヨウは手紙の木。葉は文字を記して郵便局は受け付ける。

古川 祐司

時よ停下来つわれ夕日に石落つわの花の燦

自邸の石路でしょうか。夕日に染まる姿に時を忘れる。
作者も俳人の感性を身につけられた様。無常の時を大切に。

古川 祐司

ゆるゆると風に融けゆく帰り咲

「帰り咲」は「返り花」のこと。「風が融ける」の形容詞が
言いえて妙。春の様な異常気象に下五がぴったり。

西谷 範子

羊羹の一切れでよし萩こぼる

「萩こぼる」で初秋から晩秋を感じる。そんな季節の閑日に
羊羹の甘味に疲れを委ねる。「羊羹」と「萩」の乖離が素晴らしい。

西谷 範子

労作や豊かに稲架はの撓たみけり

「稲架」は季語。田仕舞の最終章となる。長い労力が報われる時。
稲束が重い、今年は豊年満作だ。唄のひとつも出ようと言うもの。

川井 秀夫



皆様方からのご応募をお待ちしています。

絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品

パッチワーク・切り絵など



▲水彩画「靱公園」

八木順一



▲墨彩画「秋色1」

羽尻 嵩



▲陶芸「のび猫」

小島武雄



▲水彩画「伊根の船屋」

永井 幸次

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

12月	1 (木) 22 (木)	8 (木)	15 (木)
1月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

里山 Gr

12/1 協働作業の日

東側部分皆伐地区雑木伐採・整理（協働作業）
枯死木伐採・枝整理
マキ割り
マキ材玉切り及び運搬
萌芽・実生調査



8・15

シイタケ櫓木用原木伐採
マキ割り・マキ材玉切り及び運搬
真砂土の植樹場所移動
萌芽・実生調査

22

シイタケ櫓木用原木伐採
年末清掃・準備

エコファーム Gr



12/1 協働作業の日

冬野菜など収穫・チップ入れ

8

芋煮会（雨天15日）・冬野菜など収穫

15

冬野菜など収穫・ボカシ肥料作り

22

迎春準備 里芋 葉がた 冬野菜など収穫

景観 Gr

12/1 協働作業の日

整備：彩の森竹林伐採整備
ビオ：池の整備
パト：丸太階段補修
花：モミジアオイ移植、ウマノスズクサ柵撤去



8

整備：彩の森竹林伐採整備
ビオ：タナゴ池の水抜き
パト：観察路の標識補修
花：ボタンクサギ撤去



15

整備：彩の森竹林伐採整備
ビオ：池の整備
パト：観察路の標識補修
花：茗荷畑拡大と移植

22

整備：備品点検／ならやま清掃（全体）
ビオ：池の整備
パト：安全点検、清掃
花：ハマオモト、アガバンス冬囲い





行事案内 part 1

自然教室・12月自然観察会
秋の奈良公園・紅葉狩り

今年は思いのほか秋の訪れも早く、日ごとに寒気が加わり、あっという間に鮮やかな紅葉の季節を迎えました。

紅葉の名所各地では、国内外よりたくさんの観光客が押し寄せ、場所によっては大変な混雑が予想されておりますが、この時期一番の穴場となるのが奈良公園です。

特に、東大寺鏡池周辺、南大門手前吉城川川沿いはイロハモミジ、オオモミジ、ハウチワカエデの紅葉の代表的な観光スポットの一つとなっております。

紅葉と言えば、花札でもおなじみのシカトする鹿の絵柄を思い出す人も・・・。

シカトとは「鹿が描かれた10月の絵柄」が略された言葉とか。シカが横を向いた姿で描かれているため、ソップを向く事や無視することを「シカトする」と言うようになったと言います。

その様な光景そのままに、鹿のいる秋の奈良公園、みんなで訪れ、天平人も愛でたであろう同じ景色を楽しみましょう。

春に予定していた奈良公園での観察会は、残念ながら雨で流れてしまいましたが、その時予定していた奈良公園の鹿のお話も仕切り直し、改めてご披露させて頂きたいと思っております。紅葉以外にも冬支度を始める植物の不思議を訪ねます。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時：12月7日(水)
午前10時～午後3時(予定)
2. 集 合：近鉄奈良駅 行基菩薩像前
3. 持ち物：弁当、お飲み物、(あれば)ルーペ
4. 担 当：自然教室チーム
辻本/櫻木/山本(美)

以上

ならやま名物 芋煮会のお知らせ

日 時：12月8日(木) 12時～
雨天時 12月15日(木)
場 所：ならやまベースキャンプ
会 費：無料(アルコール類なし)
持ち物：お椀 皿 コップ 箸 など

創立15周年記念と感謝祭を同時に今年の芋煮会を盛大に行います。

ならやまで収穫した里芋が今年の主役!

最上川の甚五右エ門と越前大野という伝統里芋です。種芋の保存や土作り、夏場の水管理、連作回避などに心掛け、有機無農薬栽培に取り組んだ、エコファームグループの皆さんの、野菜への愛情と努力のかけがあり、上々の出来栄です。

甚五右エ門芋をベースに牛蒡、人参、大根、シイタケ、こんにゃくを存分に入れた芋煮は最高に美味しいと思います。

また、黒米、むかご入りのおにぎり、ほうれん草、きくな、ピーナッツ入りの白和えも味わってください。

会員の皆様のご参加をお待ちしています。

11月3日に、佐保台小学校5年生22名が、工夫して上手に作った案山子が届きました。エコファーム会員が作った案山子と共に、「案山子の大家族」も展示していますので楽しんでみてください。

エコファームグループ 萱野 勉



行事案内 part 2

12月・月例研修会のご案内 冬の「北・山の辺の道」を訪ねて

いよいよ12月、年末を迎え、大和の装いも冬一色になりました。そして、毎年恒例の12月月例研修会。今回は、円照寺から近鉄奈良駅まで山の辺の道の北半分を歩きます。多くの方が歩かれたコースだろうと思いますが、かなりの距離を歩くこととなります。しかし、途中、崇道天皇陵や八坂神社、また白毫寺などがあり、一緒に会のメンバーと冬の佇まいや歴史、そして交歓を楽しむには絶好の機会になります。たくさんの会員の参加をお待ちしております。

また、この後恒例の忘年会が奈良ロイヤルホテルにて開催されます。解散場所の近鉄奈良駅からホテルへのバスがありますので、引き続き忘年会にも是非参加しましょう。

- ・ 日時 12月12日(月) 10:00~15:30
- ・ 場所 円照寺から近鉄奈良駅まで
- ・ コース
近鉄奈良駅(バス停・山村町行)ー円照寺ー崇道天皇陵ー八坂神社(昼食)ー白毫寺ー新薬師寺ー春日大社ー近鉄奈良駅
- ・ 集合 近鉄奈良駅 行基菩薩像前 10時
(56番山村町行き10時17分発 バスに乗車)
※ 料金 340円
- ・ 準備 昼食、飲み物、雨対策、防寒具
- ・ 担当 八木・塩本



円照寺

忘年会のご案内



今年も残すところあとわずかとなりました。恒例の忘年会を、昨年同様、下記要領にて盛大に開催致します。

会員の皆様が一堂に会し、思い思いにご歓談いただける数少ない機会です。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、万障お繰り合わせのうえ、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日時: 12月12日(月) 17:00~19:30
2. 場所: 奈良ロイヤルホテル

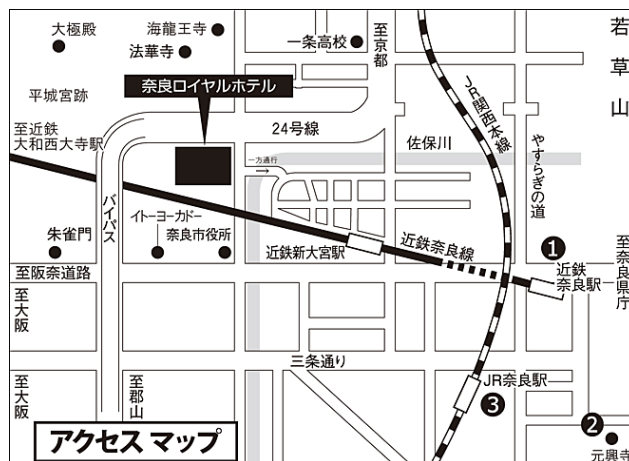


奈良市法華寺町 254-1 (0742-34-1131)
(添付のアクセスマップをご参照ください。)

3. 会費: 4,000円
4. 申込: 12月2日(金)までにお願いします。

青木幸子 辻本信一

5. 交通: JR奈良駅、近鉄奈良駅より下記時刻にホテル手配のチャーターバスが出ます。乗り遅れた方は10分後の一般のお客様用シャトルバスをご利用ください。
 - ・ 近鉄奈良駅(関西アーバン銀行前) 16:00 発
 - ・ JR奈良駅(東出口一般車両乗降場) 16:10 発
- 多数の会員のみなさまのご参加をお待ちしております。





行事案内 part 3

歴史文化クラブ 12月研修会のご案内 地元史の深掘りと座学

12月は恒例に従って奈良市地元の歴史探訪といたします。午前中は、平城宮跡から佐紀・歌姫町の史跡をめぐる歩きます。

4世紀～5世紀、この辺り一帯は大王家や有力豪族の奥津城で佐紀古墳群が営まれました。

平城京の時代には、ここに宮廷庭園の松林苑が造られ、聖武天皇は計6回も宴会を開きました。最近の調査では、東西1.8キロ、南北1.3キロの大庭園であったことが判明し、現在も築地塀の一部が残っています。

江戸時代、北浦定正は平城宮跡を調査し、その保存を訴えましたが、来年はその生誕200年に当たります。その志を継いで平城宮跡の保存に生涯をささげたのが、棚田嘉十郎、溝辺文四郎、山下鹿蔵でした。今回は、その縁者のお住まいを訪ねて、現存する古文書などを拝見します。

午後は、佐保川地域ふれあい会館に移動して、1時より座学の時間といたします。

①講師 吉川利文さん

話題「ジャーナリストから僧侶へ」

②講師 岩本次郎さん

話題「平城宮跡保存の原点を探るー北浦定政と棚田嘉十郎を中心としてー」

③懇談会「来年度の活動計画について」

実施要領

①日 時：12月20日(火) 9:00集合

②場 所：近鉄大和西大寺駅・北口バス停

③携行品：筆記具、弁当、飲み物、寒さ対策

④出 欠：準備の都合がありますので、参加予定者は事務局宛お知らせください。

⑤ 佐保川地域ふれあい会館で昼食は可
午前・午後だけの参加も可。

歴史事務局：古川祐司

1月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

1月 5日(木) 初出式(餅つき・七草粥)

*15周年記念行事

1月22日(日) 新春記念講演会
&夢・未来を語る集い

*自然教室チーム

1月11日(水) 冬のならやま自然観察会

歴史文化クラブ 1月行事予告 大神神社初詣と三輪山登拝

新春、1月度の例会は本年正月と同様に恒例行事として大神神社の初詣とご神体「三輪山」に登拝を行います。

参拝はまず大神神社の拝殿より三つ鳥居を通して神体山(三輪山)を拝した後、狭井神社でお祓いをして入山致します。

行程は山頂の大物主の依代・奥津磐座まで往復約4km所用時間は2時間30分程度の行程です。歴史メンバーには拘らず、広くご参加を募りますので、ご参加をお待ち致しております。

<実施要項>

- ・日 時：1月10日(火) JR三輪駅9:10集合
- ・近鉄 西大寺(8:25)～天理(8:46) JR乗換
- ・JR 奈良(8:34)・天理(8:51)・三輪(9:02)
- ・桜井(9:06)～三輪(9:09)
- ・コース JR三輪駅～大神神社～狭井神社～
山頂登拝～狭井神社 昼食：福神堂
- ・担当世話人 古川 祐司・中井 弘・弓場 厚次
- *参加申込：事務局 古川 祐司まで





行事案内 part 4

「新春講演会」のお知らせ

来春1月の「新春講演会」には、作家・詩人として奈良県内だけではなく、全国津々浦々の各地で講演され、執筆活動に励まれている寮美千子さんを講師にお招きして開催します。

毎日新聞奈良版（8月24日）のコラム「ならまち暮らし」に、会の活動の様子について執筆していただきましたので、ご覧いただいた方も多いかとは思いますが、その一部を抜粋してみますと

『みんなでね、農園をしているの。里山を作っているのよ』と78歳になるご婦人にかねてから誘われていた。市民農園のようなものだろうと高を括っていたが、行って見て、度肝を抜かれた。場所は平城宮跡の北東にある県有地。『ならやま』と呼ばれる一帯で、最寄り駅のJR平城山から車で5分ほど走ると、急に風景が変わる。美しい花が咲き乱れ、谷になつかしい田園風景が広がる。幻を見ているようだ。しかし、ここはほんの『入口』。この奥に、20haもの田園や山林が広がっていて、『奈良・人と自然の会』のメンバー151名で、これを維持している。そもそもの始まりは、15年前のことだったと初代会長の川井秀夫さん。・・・」。この記事が掲載され、数人の新入会者を迎えました。

今までの講演会とは少し趣の異なる切り口で講演していただけたと思いますので、是非多数の方々のご出席をお願いします。

- 1、日時：平成29年1月22日（日）
受付：9時30分～
講演会：10時～11時30分（含・質疑）
- 2、講師：寮美千子氏（作家・詩人）
- 3、演題：「父は空 母は大地 先住民の思想」
- 4、会場：「奈良ロイヤルホテル」鳳凰の間
- 5、※ 詳細は、1月号でご案内します。
- 6、※ 諸準備などの関係もありますので、本年
中に出欠の確認をさせていただきます。

創立十五周年記念「夢・未来を語る集い」

私たちの「奈良・人と自然の会」は、2001年9月に呱呱の声を挙げまして、早15年の足跡を積み重ねることができました。また、2007年4月から取り組みを開始しました、ならやま里山林の景観形成整備プロジェクトも10年の節目の年を迎えました。

つきましては、今日迄の歩みを振り返りつつ、これからの5年10年といった中長期にわたる将来の展望について「夢・未来を語る集い」を開催させていただくことになりました。

当日は、会の活動にご指導とご理解、また、ご助成いただきました関係の皆様方にご来臨いただくと共に、より多くの会員の皆様方にご出席いただき、「ならやまユートピア」構想の具現化など、花咲かせていただきたく思っています。

11月号で速報として報告しましたが、「第36回緑の都市賞・市民の協働活動部門・奨励賞」「第7回あしたのなら表彰」「生物多様性アクション大賞・入賞」と、三つの栄に浴しました。このことは、会に対する期待と共に大きな課題を与えていただいたことにもなります。

会員の皆さんお一人お一人が主役であります。どうか、記念の集いに多数の皆様がご出席くださいますよう、よろしく申し上げます。

- 1、日時：平成29年1月22日（日）
受付11時30分～
- 2、会場：「奈良ロイヤルホテル」
鳳凰の間
- 3、※ 詳細は、1月号でご案内します。
※ 諸準備などの関係もありますので、本年
中に出欠の確認をさせていただきます。



平成28年・11月度幹事会報告

日時： 10月25日(火) 14:00~16:45

場所： 奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：21名 欠席者：2名

議事:

I. 会長挨拶:一泊研修盛況御礼。各賞受賞報告。

ミーティングタイム設定についての説明。

II. 事務局・会計報告

① 会員数 152名 (前月より1名増) 名簿参照

② 会計報告:9月度収支報告

③ 助成金事業進捗状況中間報告

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月並びに当月スケジュールの検討と確認

2. ならやまプロジェクト関係:配布資料説明

3. 活動報告と予告

① 月例研修会(会報記事参照)

・10/4 天王寺方面 22名参加

・10/18-19 一泊研修報告

・11/22 自然教室共催にて馬見丘陵植物観察

・来年度より歴文と隔月開催検討

② 自然教室(会報記事参照)

・10/22 午前中会員向け芋堀大会参加者 20名

午後ならやま里山観察 13名参加

③ 歴文研修(会報記事参照)

・11/15 京都太秦・嵐山巡り

4. イベント(報告と予告)

① 10/15 芋堀イベント参加者 39名

② 10/20 佐保台小学校稲刈り参加者 22名

③ 11/3 FF 奈良交流会:芋堀大会と里山遊び

④ 11/24 新そば祭り(会報記事参照)

5. ならやま活動地域ネーミング募集

6. パトロール班散策路整備について

7. アダプトプログラム活動状況説明

IV. 広報関係:ネイチャーなら12月号編集内容

確認。会員専用ページ「ネイチャー文庫」説明。

V. 周年行事(事業):あと1回委員会開催予定。

記念誌編集は終盤を迎え月末完成予定。

以上

◆ 申し合わせ ◆

* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

奈良県北部の降水確率は次のURLでも確認可能です。(http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html)

* 臨時活動日を月曜日にする事があります。

(事前に担当役員から連絡します。)

◆ 15周年の年を振り返り



今年は、会の創立15周年の記念すべき時に当たりました。6月には新会長に鈴木氏が就任され、記念行事の計画が加速されました。

各活動Gでの、植樹、案山子作り、花壇や階段の整備も着々と進み、月例研修会の研修旅行は、充実した内容となり、記念アルバムも作成され、大いに盛り上がりました。歴文は、来年5月に記念の研修旅行を企画しています。

来春には「記念講演会」や「夢・未来を語る集い」が計画され、「十五周年記念誌」も発行すべく準備が進行中です。

「継続は力なり」今までの15年を糧に、皆様の努力で、当会の更なる発展と向上を目指したいと思います。(行々子)

会報誌【ネイチャーなら】・第179号

発行:奈良・人と自然の会

会長 鈴木末一

URL: <http://www.naranature.com>



編集チーム代表:坂東久平